

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	46	清水	高等学校	課程	全
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。 ジョン万次郎をモデルにした探究型学習や国際理解教育を推進することで、論理的思考力とグローバルな視点を備え、地域社会に貢献する人材を育成する。
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○地域や社会について関心を持ち、その仕組みや今後の在り方について考えようとする生徒を求めます。 ○地域の自然、社会、人々について、積極的に理解を深め、より良くしようという意欲を持った生徒を求めます。 ○国際社会や国際交流に関心を持ち、世界の人々と交流し、自分を高めたいと考えている生徒を求めます。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)	○社会の課題を広い視野で分析・考察し、解決方法等を提案するような学びを行います。
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○世界や社会の事象を深く探究する力を育成します。 ○未来を生き抜き、新たな価値を創造する力を育成します。 ○他者の意見や視点を尊重し、協働的に取り組む力を育成します。	○地域における自然科学、社会科学、人文科学の各分野について、学際的な視点で探究する学びを行います。 ○英語で対話や議論ができる力を身に付け、世界的な視野でSDGsの実現に貢献しようとする学びを行います。	

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	基礎力診断テストの結果では1・2年ともにD層の減少およびA層の増加が見られる。1年次の習熟度別講座編成や放課後の基礎力定着補習や進学補習、すらを活用した基礎力診断テスト対策など取組の成果が表れている。その反面、授業外学習時間の少なさが懸念点である。次年度は学ぶ意義を理解させるとともに将来像を描くことができるような取組を実践することを期待する。
【社会性の育成】 評価 【 A 】	総合的な探究の時間や清水学際で生徒が地域のことを学習し、地域のイベントに生徒が参加するなど、地域と学校が連携した取組が実践されている。コーディネーターと連携しながら地域と学校を結び付けていることが実践の後押しとなっている。次年度以降もこの方向性を維持し、生徒と地域との繋がりを意識した取組を行ってほしい。
【チーム学校】 評価 【 A 】	地域外の生徒募集に向けて学校ととも未来課との連携ができており、地域外からの受検生が10名となったことはその結果であると思う。校内ではコーディネーターと教員の協働ができており、高校の魅力化に繋がっている。取組を進めるにあたっては教職員の負担が増えていると思うので、魅力化推進と働き方のバランスをとることに留意してほしい。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
								学力の向上	社会性の育成
重点項目	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加 2年生2回目の学力定着把握検査におけるC層以上の生徒の割合を高知県目標数値以上にする ・1年:(33.3)%→(55)% ・2年:(59.5)%→(80)% ○授業外学習時間の増加 「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」の回答30%以下 R6 2回目 1年 61.9% 2年 47.6% ○将来のための勉強をしている生徒の増加 「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答90%以上 R6 2回目 1年 66.7% 2年 81.0%	・授業のめあて・目標・振り返りを効果的に活用した授業デザインの研究を学校全体で行う。 ・タブレットを効果的に活用した授業改善を行う。 ・「すらら」を活用した補習を実施する。	B	○「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」(目標値との差) 1年 -17.5ポイント 2年 -3.8ポイント 3年 -20.5ポイント(目標値が〇〇以下のため目標達成) ○「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」(目標値との差)1年 -15ポイント 2年 -10.8ポイント 3年 +10ポイント ・1・2年生のD3層の生徒対象に6月から「すらら」を活用した放課後補習を実施した。	・授業デザインプロジェクトリーダーを中心にして公開授業と協議を行う。 ・学習した内容を活用する場面を設定していく。	B	○2年生第2回のC層は+3.3ポイント ○授業外学習について、3年生が+3.3ポイントで目標には届いていないものの、放課後補習や検定対策など、学習をしている姿は見られる。 ○「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」について、3年生の肯定的回答は+0.5ポイント	授業デザインプロジェクトリーダーを中心に組織的な学力向上対策を実施する。 【評価指標】 授業外学習時間1時間以上を25%以上にする。
	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○貢献的態度の育成 「高校入学以降、地域や社会をよくするために地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」の肯定的回答60%(3年生2回目時点) 参考値:R6 2回目 1年23.8% 2年47.6%	・キャリア・パスポートを改善する。(目標設定と達成に向けた具体的な計画の策定) ・総合的な探究の時間における年間計画を改善する。 ・地域イベント等へ積極的な参加を促す。	A	○「高校入学以降、地域や社会をよくするために地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」(目標値との差) +11.5ポイント	・地域をフィールドとした探究的な学びを充実させ、グループ討議や発表の場を多く設定していく。 ・生徒が行っている活動へのフィードバックを充実させる。	A	○「高校入学以降、地域や社会をよくするために地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」について、3年生の回答は+9.6ポイント	コーディネーターと協働し、地域と生徒の接点を増やす。 【評価指標】 地域のボランティア活動に関わる生徒を70%以上にする。
取組項目	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○エージェンシーの育成 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」の肯定的回答70% R6 2回目 1年69.1% 2年52.4% ○キャリアデザイン力の向上 「高校入学以降、地域や社会をよくするために地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある。」の肯定的回答70% R6 2回目 1年23.8% 2年47.6%	・総合的な探究の時間及び清水学際においてSDGsの視点を踏まえ、地域課題について取り組む。 ・「地域・社会の現状と改善」をテーマとした探究発表会を実施する。 ・DXハイスクールを活用してスマート化した1次産業を学ぶ取り組みを行う。	B	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」(目標値との差) 1年 +5.0ポイント 2年 -10.5ポイント 3年 +1.4ポイント ○「高校入学以降、地域や社会をよくするために地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」(目標値との差) 1年 -28.3ポイント 2年 -31.9ポイント 3年 +1.5ポイント ・総合的な探究の時間や学校設定科目で、地域と連携した活動ができていないもの具体的な実践に結びついていない。	・地域の資源を活用した総合的な探究の時間や清水学際での学習を通じて、自らの行動が課題解決の一端を担っていることを認識させる。 ・学年末の探究発表会に向けて取組をすすめていく。	A	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」について3年生の回答は-3.3ポイント ○「高校入学以降、地域や社会をよくするために地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある。」について、3年生の回答は+9.6ポイント	地域をフィールドとした学びを継続する。 【評価指標】 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている生徒を70%以上にする。
	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場を意図的に設定した回数の増加 ○課題解決に関わる意欲の向上 「高校入学以降の学習によって環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」の肯定的回答80% R6 2回目 1年64.3% 2年71.4%	・各教科において、探究的な学びを推進し、自己の考えを適切に表現する機会を設ける。 ・生徒が自身の思考を深めるための発問を工夫する。	B	○「高校入学以降の学習によって環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」(目標値との差) 1年 -9.2ポイント 2年 -18.1ポイント 3年 +1.0ポイント ・職員室での会話から他教科の授業内容を意識する内容が聞かれる。 ・授業中に「なぜ?どうして?」といった探究活動につながる声掛けが行われている。	・各教科共通の振り返り項目において授業の中で「なぜ?どうして?」を問う。 ・グループ活動や意見発表にタブレットを活用し思考が深まるよう工夫していく。 ・清水学際と総合的な探究の時間を軸に探究プログラムの開発を継続する。	B	○「高校入学以降の学習によって環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」について、3年生の回答-3.8ポイントであったものの、新学科の1年生は+11.3%と「清水学際 I」や各教科の取組の成果が表れつつある。	各教科での取組を継続しながら地域との繋がりを意識した取組を検討する。 【評価指標】 環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う生徒を80%以上にする。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
								学校の振興	不祥事防止
チーム学校	★学校の魅力化・特色化 ○中高一貫教育の推進 ○地元中学校及び地域外からの生徒数確保 ○地域・大学等と連携した探究活動	○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・清水中学校からの入学者数の割合を70%以上に(現状:清水中学校からの入学者R7年度42.9%、R6年度65.6%) ・地域外および県外からの入学希望者 5名 ○学校運営協議会等の実施回数 2回	・探究及び英語教育について小中高の担当者会を行い、系統的なカリキュラムについて協議、策定する。 ・部活動における合同練習を実施する。 ・地域みらい留学で未来共創をアピールする。 ・コンソーシアムを活用した探究活動を実施する。 ・地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けた努力目標とアクションプランを策定し、学校と地元市町村とが連携・協働して取り組む。	B	○8月末の時点で清水高校を志望している生徒割合50.9% ○地域外から学校説明会への参加数9名 ○学校運営協議会を1回実施 ・地域みらい留学やこうち留学への参加によって県外生への認知度は高まっている。	・フェアハイブ派遣事業に参加した高校生の報告など高校生の活動を周知する。 ・Instagramやホームページを活用して清水高校の県内外認知度を高める。	A	○清水中学校からの受検生の割合62.7%、地域外からの受検者数は10名 ○学校運営協議会等の実施回数 2回	在校生と魅力化コーディネーターによる魅力発信に努める。 【評価指標】 清水中学校からの入学者70%以上 地域外からの入学生8名以上
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・定期的な啓発活動の実施(随時実施) ・チェックリストを活用してハラスメントについての理解を100%とする ○校内研修の実施回数 3回 ○不祥事防止委員会の実施回数 6回	・報告・連絡・相談を励行する。 ・不祥事防止チェックリストを活用し、年3回チェックを実施する。 ・研修会の情報を共有する。	A	○9月までに校内研修を1回実施 ○不祥事防止委員会を5回実施 ・研修会や不祥事防止委員会の内容を共有できている。	・校内研修会を実施する。 ・定期的に意識喚起を継続していく。 ・報告連絡相談がスムーズにできるよう環境を整備していく。	A	○校内研修を3回実施 ○不祥事防止委員会11回実施	不祥事防止委員会・校内研修の継続 【評価指標】 不祥事防止委員会の実施10回
	★長時間勤務の解消 ○風通しのよい職場環境 ○やりがいを持って校務に取り組める体制の構築	○長時間勤務者の減少 ・1か月の時間外在校等時間が80時間を超過した教職員を0名にする。	・夏季休業期間に閉庁日を設定する。 ・部活動複数顧問制(一部)を実施する。 ・休暇取得しやすしい職場環境を整備する。	A	○80時間を超過した教職員は0名 ・夏季休業中の閉庁日の設定や休暇の奨励によって8月の超過勤務は少ない。繁忙期との調整ができています。	・繁忙期と閑散期のバランスがとれるよう勤務時間の把握に努める。 ・研修や会議の内容を精査し、削除できるものを削除していく。	A	○1か月の時間外在校等時間が80時間を超過した教職員は0名	閉庁期間の設定業務の簡略化と分担を検討 【評価指標】 1か月の時間外在校等時間が80時間を超過した教職員0名